

## 共 立 橋（きょうりつばし）

### ■共立橋の歴史

\* 昭和6年11月14日

常呂川の築堤工事用に架けられていた常呂川8号橋が吹雪のため  
落ち、通学に利用していた児童は渡船に変更（「共立百年史」）

\* 昭和15年

川西、川東を結ぶ下川沿渡船廃止、木造吊橋完成（共立橋）  
国力鉱山（鉄山）からワイヤーを、官林から用材の払い下げを受け、  
川東住民が中心となり、川西の役員も手伝い、木造の吊橋（共立橋）  
が完成（「共立百年史」）

\* 昭和25年4月10日

共立架橋（共立橋）完成式：共立会館（「常呂町「当直日誌」）  
木造吊橋が老朽化のため、コンクリート製吊橋（共立橋）に架け替え  
部落共同の事業で基礎工事のコンクリート練り出役  
（「共立百年史」）

\* 昭和43年9月

共立橋架け替え工事着工（「共立百年史」）

\* 昭和44年10月15日

共立橋完成・渡橋式、架替工事竣工式（「広報ところ」）

\* 平成4年5月30日

老朽化のため、共立橋の大規模補修工事開始（「広報ところ」）  
道営畑地帯総合土地改良事業として着工（「共立百年史」）

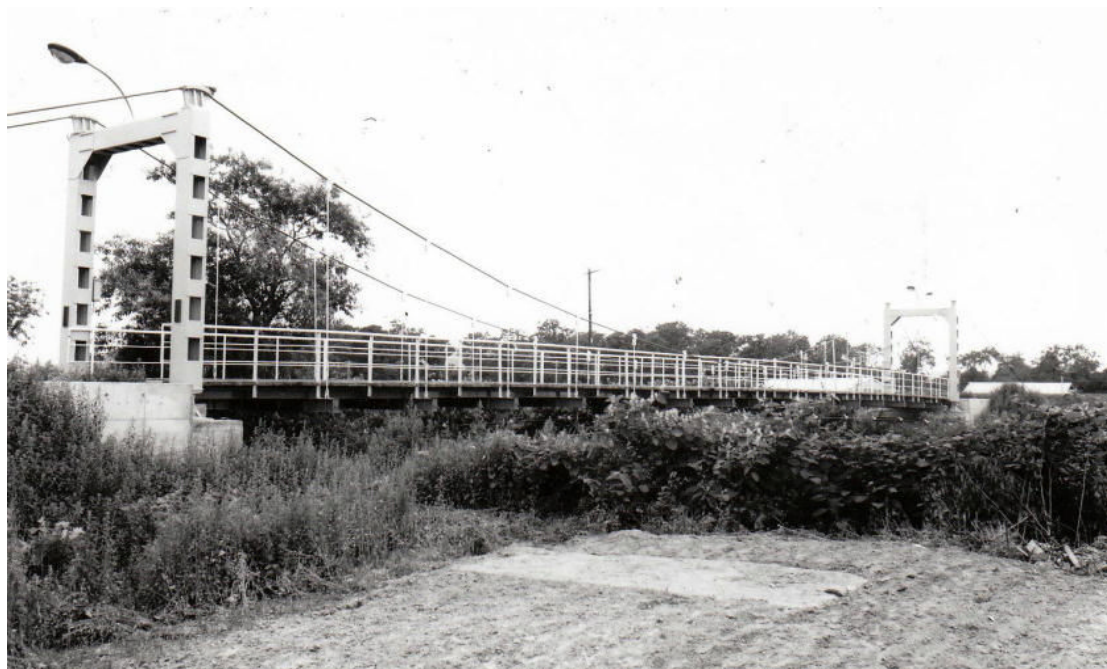
\* 平成5年2月17日

午前11時渡橋式の運びとなった。当日は風が強く、小雪の舞う  
中ではあったが、多数の人々が渡橋式に参加、麻畠喜久太郎・喜代  
夫妻、室田信次・秀子夫妻の渡り初め、この後共立会館において  
関係機関・共立区民による祝賀会が開かれた。  
（「共立百年史」）

\* 昭和25年のコンクリート製吊橋の共立橋



\*昭和44年10月15日の共立橋完成・渡橋式



\*次ページは「広報ところ」掲載の共立橋渡橋式の記事

# 町議会だより

## 43年度

# 各会計決算を認定

## 議会議員の定数減少条例を改正

第三回臨時町議会は十月二十九日午前十時から議場に二十名の議員が出席して開かれました。

提出された議案は、昭和四十四年度一般会計補正予算をはじめ、昭和四十三年度各会計歳入歳出決算認定など六件の議件について議会の議決をもとめた。

◆一般会計補正予算では、一千六百七十二万二千円が補正になって一般会計の総額は、当初予算(三億五千四百万円)より五千二万円増えて、四億四百二万円となりました。補正された主な才入と才出は次のとおりです。

【才入】 自動車取得税交付金 四百五十万円、地方交付税 二百三十八万九千円、国庫補助金 二万六千円、財産売却収入 二十万円、繰越金 八百九十四万六千円、雑入 六十一万八千円(七)となっています。

【才出】 総務管理費 二百三十三万八千円(融資住宅繰上償還金など)、清掃費 八万円、水産業費

百四十万五千円(常呂橋港拡張施設整備事業補助金など)、道路橋梁費 八百六十五万円(フルト1サ1購入費や日吉橋架換工事設計委託料など)、住宅費 六十六万円、教育総務費 十五万五千円、小学校費 三百九十九万九千円(常呂小学校及び川沿小学校校舎電気配線工事請負費など)、中学校費 一万九千円(七)となっています。

◆昭和四十三年度各会計歳入歳出決算の認定では、紙谷監査委員から監査意見がのべられたのち審議に入り、歳入総額では 五億五千八百九十九円 (一般会計 四億二千八百六十三円、特別会計 一億五千五百四十四円)、歳出総額は 五億三千二百四十七円 (一般会計 三億八千四百九十七万四千円、特別会計 二億四千



議会風景

七百五十万四千円)で、差引きでは二千五百五十三万二千円(一般会計一千七百八十八万九千円、特別会計六十四万二千円)の決算剰余金となる決算を原案より可決しました。

決算のくわしい内容については次号(十二月)に特集としてお知らせいたします。

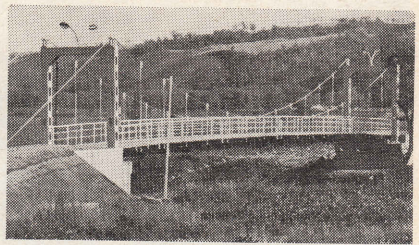
◆常呂町立かき島岸の家設置条例の一部を改正する条例の制定、青年の家の管理、その他必要な事項については、いままでも町長が定

めていたものが教育委員会に改められたものです。

◆常呂町議会議員の定数減少条例の一部を改正する条例の制定について、議員数は地方自治法上において本町は二十二名となっていますが、近年社会状況の豊化に伴い町人口も減少の傾向にあり、かつ近隣町村においても議員数の減員を行なわれている現況に鑑み、二名の減員を行ない経費の節減等を計り住民福祉に貢献するため二十名に改正されました。

## 準永久橋に変わる

### 共立橋3代夫婦渡りぞめ



完成した共立橋

も甚だしく加えて、川東地区の子供達の通学危険度を考慮すると共に、地区住民の強い要望もあり、新しく架替えられたものです。

この新つり橋は、昭和四十三年九月から二年計画で、工事費一千六百六十二万円を投じて、札幌市橋造船と網走市丸田組によつて工事が進められていたもので、延長四十八メートル、巾員三メートルのつり橋ですが、銅索や銅管くいななどを用いた近代的技術を駆使した準永久橋です。

ハサミを入れて渡橋式が始まり、神官を先頭に豊川の馬淵元之助さん(七十五才)マサヨさん(七十三才)夫婦、息子の一男さん(五十三才)モモヨさん(五十三才)夫婦、孫の敏幸さん(二十四才)揚子さん(二十一才)夫婦の三代夫婦が渡りぞめ、つづいて来賓や地元関係者が渡り、盛会のうちに渡橋式は終了しました。

共立橋架替工事竣工式が、さる十月十五日関係者八十名が出席して、現地に設けられた祭壇前で三角神官により修被、祝詞奏上の上と上杉町長らが玉串をさげ安全を祈つたあと、五色のテープに

従来の共立橋は昭和二十五年につくられた木造のつり橋で、二十一年近い歳月を経た今日では老朽度



渡りぞめ風景

\* 平成5年2月17日直後の共立橋



\* 現在の共立橋  
\* 共立側から見て



\* 川東側から見て



\* 橋から下流を見て



\* 橋から上流を見て

